

ポイント

◆◆特集◆◆

★総合物流施策大綱（2017年度～2020年度）について★

（国土交通省 総合政策局物流政策課／道路局企画課道路経済調査室）

我が国の物流を取り巻く状況に様々な変化が生じている中で、政府の物流行政の方向性を示し、関係省庁の連携によって総合的・一体的な施策の推進を図るものとして、「総合物流施策大綱（2017年度～2020年度）」が平成29年7月28日に閣議決定された。本稿では、物流を取り巻く状況の変化と新しい大綱の概要を紹介する。

◆◆道路法令Q&A◆◆

★限度超過車両の通行の許可等について★

（国土交通省 道路局 路政課）

限度超過車両の通行の許可等について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★東九州自動車道開通1年後のストック効果★

（九州地方整備局 道路計画第二課）

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点とし、大分県・宮崎県・鹿児島県を結ぶ計画延長436kmの高速自動車国道である。

平成元年に日出JCT～別府IC間が開通し、平成28年4月24日に椎田南IC～豊前IC間が約27年の年月を経て開通し、北九州～宮崎間がつながることができた。

東九州自動車道開通1年が経ち、企業立地や物流、観光など沿線にて発現しはじめている開通効果について報告する。

## ◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

### ★平田地区における津波避難階段整備について★

(東北地方整備局 三陸国道事務所 釜石維持出張所)

釜石市平田地区は避難場所に避難するにあたり、現況は海に向かって避難経路を進まなければ無かった。東日本大震災時はその避難経路付近まで津波が押し寄せたことから、高台となる国道45号に直接上がる避難階段の設置という住民要望が出されたため、地域住民と意見交換をしながら道路管理者である国が避難階段の整備を行ったもの。

.....

### ★観光や環境を視点にした道路施設改善の取組について★

長野県における「道路照明LED化」「歩道グレードアップ」「道の駅整備」

(長野県 建設部 道路管理課)

長野県では、平成25年に「長寿命化修繕計画」を策定しましたが、限られた予算の中で、計画に沿った修繕を確実に実施するための予算確保が課題となっています。一方で、「世界水準の山岳高原観光地づくり」を目指しており、環境保全や観光地という視点でも道路の維持管理を進めていく必要があることから、可能な部分で取組を進めているところです。

本稿では、【道路照明のLED化】、【観光地の歩道グレードアップ】、【道の駅】について、ご紹介します。

.....

### ★県・市と連携した効果的な道路整備事業★

(須坂市 まちづくり推進部)

須坂市では、『市道園芸高校井上線』道路改良事業を実施しました。本稿では、長野県事業と連携することにより得られた、安全な通学路・渋滞緩和・地域経済の発展の効果について報告します。

## ◆◆編集後記◆◆

急に気温が下がったせいもあることと思いますが、辛そうに咳をする人が増えました。咳は、外部からの体内に入ってきたほこり、煙、風邪のウィルスなどの異物を気道から取り除こうとする身体の防御反応であり、肺や気管などの呼吸器を守る役割を果たしています。また、乾燥し始める時期でもあるため、喉に痛みを感じたら、スプーン一杯のはちみつを取り入れることにしていますが、折よく、理科教諭から養蜂家に転身された方より、はちみつの話を聞く機会に恵まれました。

はちみつは、天然の甘味料以外として、抗菌性や防腐性に優れていることから、咳止めやアレルギーの抑制、また、パックやクリームなど美容の世界でも広く用いられています。はちみつを運ぶのはミツバチとなりますが、その行動特性等により養蜂に適しているものは、セイヨウミツバチとニホンミツバチの2種類のみといわれています。ミツバチは集団で生活していますが、働きバチ、雄バチ、女王バチの3つの階層に分かれ、それぞれの役割を果たすこととなります。花蜜を探し、巣房まで運ぶのは、ご存知の通り働きバチとなりますが、驚くことに、遺伝子は女王バチと全く同じであり、幼虫のところに与えられるローヤルゼリーの量の差で、その役割に差が生じるそうです。女王バチは卵を産むことが役割となり、働きバチには、巣作り、門番、餌集めなど様々な役割があります。餌集めを役割とする働きバチは、蜜源を探しに出かけますが、見つけると仲間に位置を知らせるためのダンスを踊ります。このことから、高いコミュニケーション能力を持つ昆虫であることでも有名です。お尻で方向を示し、尻振りの速度で距離を示す様が数字の8を描いているように見えることから8の字ダンスともいわれています。そして、花から蜜を採餌し、蜜胃という器官に貯蔵し巣房まで運びます。巣房で吐き戻された花蜜がハチミツとなりますが、糖と水の割合によって味に違いが生じるそうです。

ミツバチは、花蜜を運ぶだけではなく、後脚にある花粉かごと呼ばれる器官があり、さまざまな植物の受粉にも貢献しています。かの有名な科学者アインシュタインが「ミツバチが地球上から消えたら、人類はあとわずか4年生きられるだろうか。」といったほど、ミツバチの活動は、わたしたちの生活を支えています。紀元前6000年頃には、スペイン東部のラ・アラーニャ洞窟の壁にはちみつを採る人の姿が描かれ、一方、わが国では、「日本書紀」に、養蜂に関する記述があるようで、歴史が証明しているように、古よりミツバチからの恵みを受けていましたが、生息地の減少や新しい病気が発生するなどの要因によって、個体数が減少傾向にあるといえます。このような中、都会でもミツバチが生息できる環境を整えようと、ノルウェーではビーハイウェイという取り組みが行われています。屋上やバルコニーを花々で飾り、ミツバチが食べたり休んだりできる場所を配置するというものです。人が主体となる道は、着実に整備されているものの、このようにミツバチが通る道を守るという発想は驚きであり新鮮なものに映りました。このような取り組みが広がり、これからもミツバチからの恩恵を受けつつ、自然環境が守られれば嬉しく思います。(U)